



Les Amis de L'Orgue de Tokorozawa MUSE



今年もあっという間に12月がやってきました。2017年を振り返ると、大きな演奏会も多く、とても充実した一年でした。今年の12月は少し落ち着いて年末の準備ができそうです。皆様はどんな一年でしたか？2017年残りの日々も、大切に過ごしたいですね！

🍏 2018年2月はオルガン公演が盛り沢山♪



2月2日（金）お昼どきオルガン・コンサート⇒山田由希子さん

寒い冬は暖かいホールへ！2月の500円コンサートで演奏して下さるオルガニスト・山田由希子さんは東京藝術大学時代の一つ上の先輩です。美しいバロックオルガンがある街で有名な、北オランダのフローニンゲンという街に長く留学されていました。私もフランスに留学中、この頼れる先輩を訪ねて、楽器見学を口実にオランダに遊びに行ったものです。数々の国際コンクールで受賞されている新進気鋭のオルガニスト山田由希子さんの、キリッと歯切れの良い演奏をどうぞお楽しみに♪11時からと14時半からの二回公演です！



2月17日（土）ホール・オルガニスト企画 梅干野安未オルガン・リサイタル

GERMANY ROMANTIK
FRANCE ROMANTISME

ドイツ
フランス

美しい
ロマン派
の世界

ドイツ X フランス

2018 2/17 14:15開演 15:00開演

所沢市民文化センター ミューズ アークホール

梅干野安未

今年もホール・オルガニスト企画の時期が近づいて来ました！第4回目を迎えるこの公演ですが、今回は横刷りのちらしで気持ちも新たにお届けします。『美しいロマン派の世界』と題して、フランスとドイツのロマン派時代のオルガン名曲の数々を聴き比べて頂きます。ロマン派といえば、主に、豊かな表現のできるピアノやオーケストラのために数々の傑作が生み出された時代。メンデルスゾーン、シューマン、ブラームス、

フランクといったロマン派の巨匠達は、バロック音楽とりわけバッハの音楽を研究するため、バッハなどのオルガン作品を学び、オルガン演奏にも精通していたと言われています。その証に、彼らは沢山の美しいオルガン作品を残しているのです。

今回の目玉は、交響曲二短調でも有名なセザール・フランクのオルガン作品「前奏曲、フーガと変奏」を、原曲の編成そのままに演奏するところです！この作品は元々、ピアノとオルガン（ハルモニウム）のために書かれており、今回は世界的ピアニストの菊池洋子さんをお招きして、ミューズの大オルガンとピアノでそれを実演致します。菊池さんのピアノのファンの皆さんも必聴ですね！詳しい内容は次回1月15日発行のオルガン通信をお楽しみに♪

🍏ホール・オルガニストのヒ・ミ・ツ🍏



このコーナーではホール・オルガニスト梅干野安未のヒミツを一挙ご紹介！！という訳ではなく…『ホール・オルガニスト』しか知らない、ミュージズのオルガンのあれこれをご紹介します。通常ホールの大オルガンは、オルガン公演やオーケストラとの共演、そしてミュージズオルガンスクールのレッスンなどで使われていますよね。ホールのアドバイザーである松居直美さんやホールのスタッフの皆さんと連携しながら、常に良い状態で演奏できる様にパイプに風を送り、全ての音色、鍵盤や機能がしっかりと動いているか定期的にチェックするのも私の重要なお仕事の一つです。



今日は、最も質問の多い調律のお話を。所沢ミュージズでは2年に一度、オルガンを製作したリーガー社のオルガン職人の方（正確には整音師）がオーストリアから来日して、約一週間かけて5500本を超えるパイプの総合調律をします。オルガンの調律って、かなり根気のいる作業なのです！パイプの近くで調律する人は狂いの原因である唸りを聴き分ける耳と、目の前のパイプを間違えないように集中しながらのシビアな闘い、一方鍵盤を押す人は調律する人の合図に耳を傾けながら、時々襲ってくる眠気との闘い。ピアノの調律は一人でもできますが、オルガンは鍵盤とパイプの位置が離れているので、一苦労です。



その他にも年間で数回、公演の前に調律をしますが、ここでお世話になっているのが日本人オルガン職人の皆様。オルガン公演を支えて下さる縁の下の力持ちです。いつもお世話になっている木村オルガン工房の木村秀樹氏（写真左）と、望月オルガンの望月一郎氏（同右）。オルガンのパイプには、フルー管とリードが振動して音を出すリード管があるのですが、公演前には、通常リード管のみを調律します。（写真右上：調律ピンを叩いて調律中）リードの長さを調律ピンで上げ下げする事で簡単に調律できるのです。ミュージズのオルガンには

75種類の音色のうち19種類のリード管を使った音色がありますので、1000本近くになりますね！オルガンを良い状態に保つために、沢山の皆さんが支えて下さっているのです。これからもどんどんホール・オルガニストの視点からヒ・ミ・ツをお届けしていきますね♪

🍏演奏会レポート🍏 10月14日 廣江理枝オルガンリサイタル



沢山の皆様にご来場頂き、本当に有り難うございました。前半はバッハの傑作を存分に味わい、後半はがらりと雰囲気を変えて、超絶技巧のムソルグスキー「展覧会の絵」がミュージズの大ホール一杯に響きました。様々な音色の組み合わせが立体的に、艶やかに響き、まるで音の展覧会を味わっているかのような錯覚を覚えました。最高の表現のため、ストイックにリハーサルを重ねていらした廣江さんの姿がとても心に残っています。

